# U-Control

# BONGO

## ボンゴ

## TRAINER MODEL KIT For 09～15

| | |
|---|---|
| 全　長 | 490mm |
| 全　巾 | 730mm |
| 全備重量 | 430～470g |
| 翼面積 | 10.7dm² |
| 企画制作 | 東京理工株式会社 |

**Ⅲ.** 主翼がねじれるとうまく飛ばなくなりますから、主翼の工作は平らな台の上で行うと良いでしょう。また、ねじれに気づいた時は接着剤が乾かないうちになおしておきます。
スパーと後縁材をカンザシW15、W16でつなぎます。この時、カンザシの中心線とスパー、後縁のつき合わせが所を合わせると良いです。W15の接着位置はスパーの後方でないとベルクランク台を取り付けられなくなるので側面図をよくみて注意して下さい。接着剤が乾くまで、目玉クリップやセロテープで固定しておきます。スパーに後縁材のリブの位置を写しとり、リブをはめ込み、後縁材、前縁材を接着します。主翼は右翼と左翼では長さが異なり、左翼の方が長く、左翼リブは肉ヌキしたものを使うので注意して下さい。W10 W11、W13、W14の接着は、輪ゴム、画ビョウなどを使って接着剤が乾くまで固定しておきます。ベルクランク用支点の工作は、図4をみて下さい。つづいて主翼中央部をボール紙でブランク(板ばり)します。ブランクのW12の上面は後で切りとりF7と接着するので接着剤はぬらないで下さい。ブランクの接着剤はセメダインCが良いでしょう。輪ゴム、クリップなどを使って固定しておきます。乾そう後、全体を荒目のサンドペーパーでみがき、最後に細目のサンドペーパーで仕上げます。ボール紙ブランクの前後縁の角などは、クリヤラッカーかセメダインCをうすくぬり、固めてからみがくとつるつるになります

図5

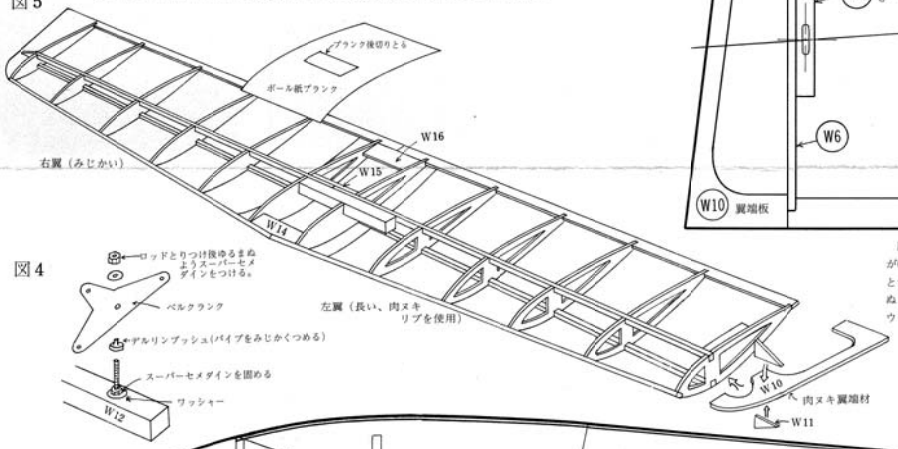
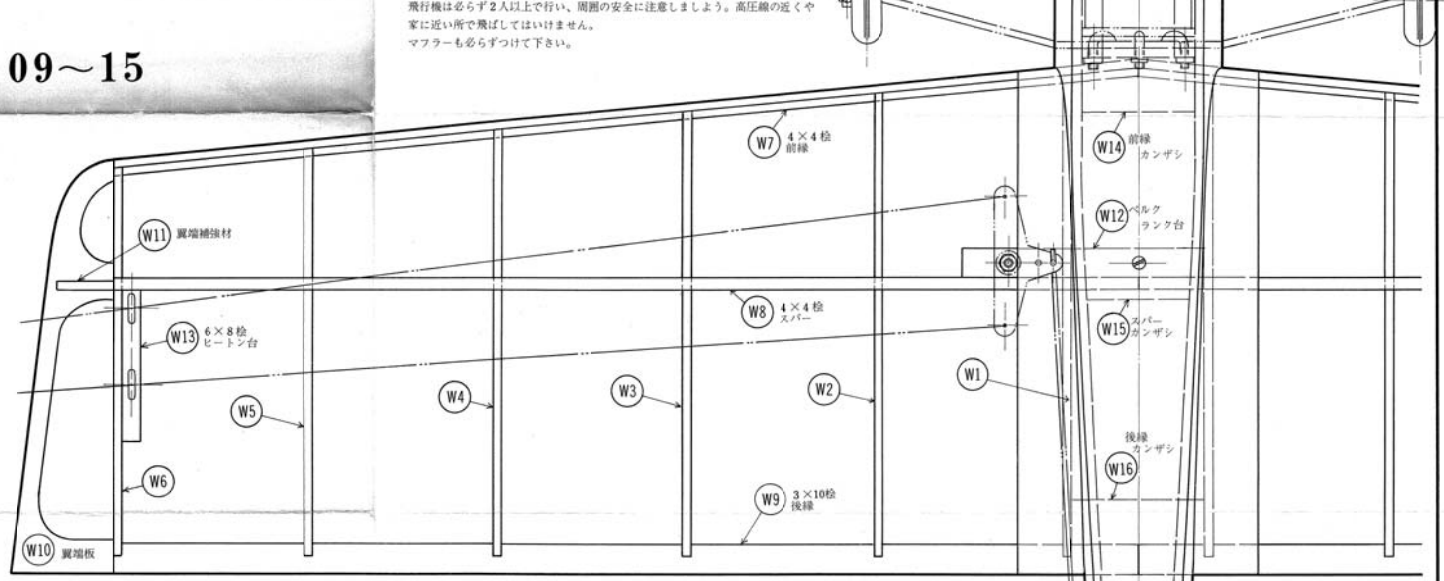



図4




胴体は曲がったり、ねじれたりしないように注意して下さい。もし曲がりやねじれに気づいたら接着剤が乾かないうちになおして下さい。図1のようにエンジンマウント部を組みたて接着し、タンクをF1とマウントの片側に接着します。つづいてJボルトでF2に脚をとりつけ、ゆるまぬように接着剤をぬりつけます。以上の工作の接着剤はスーパーセメダインを使って下さい。でき上ったエンジンマウント部を側板ではさみスーパーセメダインで接着しますが、エンジンマウント下側と側板のすき間にも接着剤を流し込んで下さい。F3、F5、も接着し、輪ゴムで固定。側板の尾部は目玉クリップで固定します。F7は胴体に主翼をとりつける時にベルクランク台の位置に合わせてスーパーセメダインで側板に接着します。

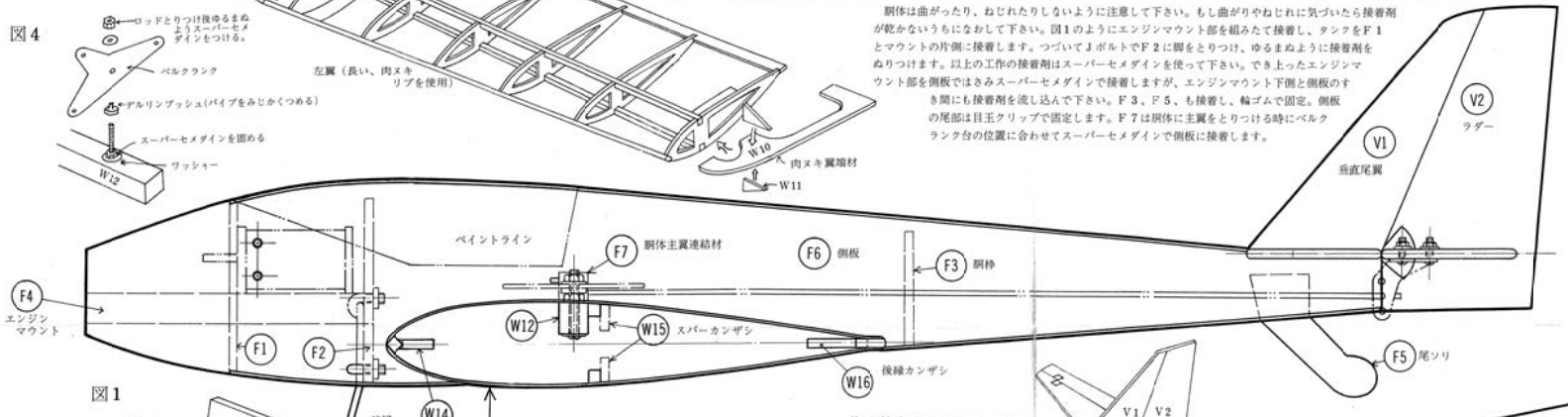



図1

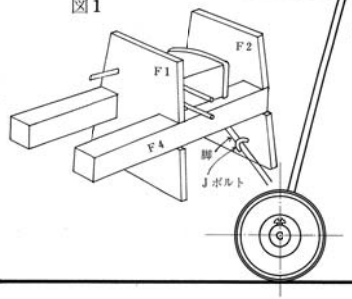
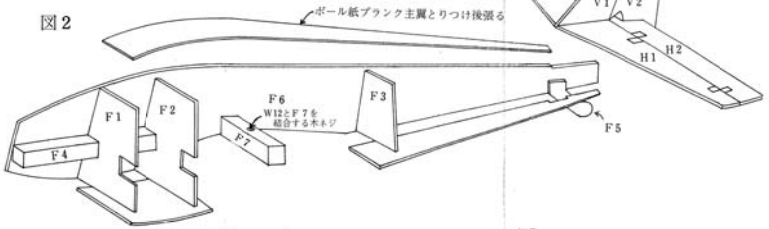
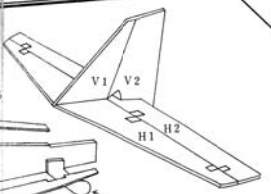
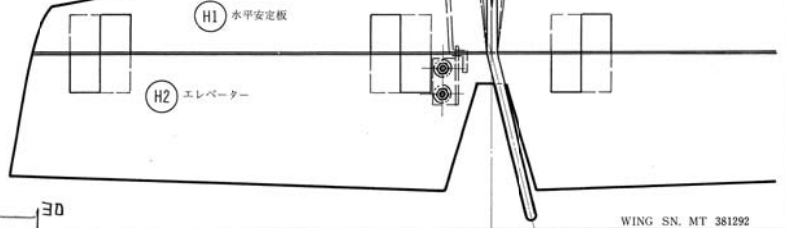



図2



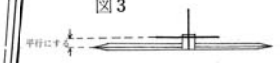

**Ⅳ.** F7とW12をスーパーセメダインと本ネジで結合後、胴体上下面をボール紙でブランクし、主翼に紙張りをします。
霧を吹いた翼紙を大き目に切り、前縁と平行にひっぱり、しわをのばしながら張ります。
全体にクリヤラッカーをぬり、細目（240番位）のサンドペーパーでみがきます。これを2～3度くり返えすとつやがでます。ベニヤの部分にはタルク(シッカロール、あせしらずでもよい)とクリヤラッカーを1：1にまぜたものをぬり、サンドペーパーでみがくと滑らかになります。このあと好みの色づけをしますが、セロテープや紙の粘着テープを使って色をぬり分けると面白いでしょう。色づけにラッカーを使った時は最後にクリヤエンビかクリヤビニローゼをぬって燃料におかされないようにします。もし、主翼などにねじれがあるときはコンロの遠火であたためて反対にねじり、ある程度なおすことができますが、あたためすぎると塗装面にアワができるので注意して下さい。

エンジンは09～15が適当です。コントロールワイヤーは09の時は10m位、15の時は14～15m位が適当です。
飛行機は必らず2人以上で行い、周囲の安全に注意しましょう。高圧線の近くや家に近い所で飛ばしてはいけません。
マフラーも必らずつけて下さい。

エンジンは2°～3°右向きにとりつけて下さい。

**Ⅱ.** 尾翼はV1とV2の間にV字の切り込みを入れ7～8°外側へ曲げて、スーパーセメダインで固めます。セロテープや輪ゴムを上手に使って固定して下さい。H1とH2を布ヒンジでつなぎ、でき上った垂直尾翼をのせてスーパーセメダインで接着します。この時V1が傾かぬよう注意して下さい。接着剤が固まるまでH1とV1に画ビョウを打ち、これに輪ゴムをかけて固定します。
水平尾翼は後方からみて主翼後縁と平行にしなければいけませんから、主翼とりつけ後に胴体に接着しても良いです。
（図3をみて下さい。）

図3




WING SN. MT 381292